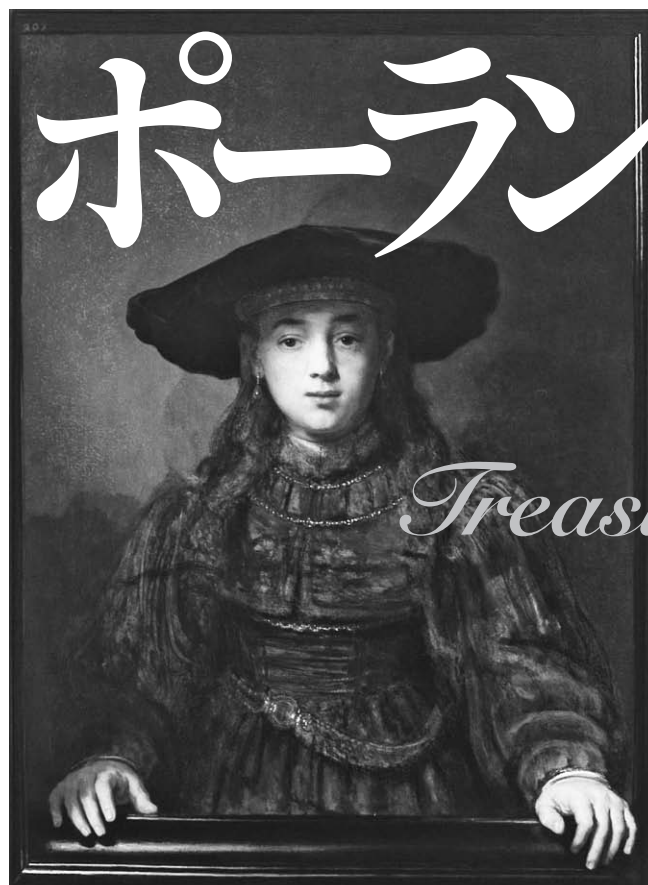


ポーランドが誇る美のコレクションを日本初公開!!



《顔縁の中の少女》 レンブラント・ファン・レイン 1641年 ワルシャワ王宮所蔵 Photo: Andrzej Ring

モデルの少女の微笑が「モナリザ」の微笑みにも例えられる本作は、ポーランド最後の国王スタニスワフ・アウグストが所蔵していたもの。2006年にレンブラント生誕400年を記念して、オランダとドイツで開催された展覧会に初めて出品され、大きな話題となりました。ポーランドが所蔵する西洋絵画のなかでも最も重要な作品のひとつが、今回特別に貸し出しされ、日本が記念すべき3カ国目の公開となります。

この展覧会を通して、鑑賞者の皆様は、ポーランドの歴史、伝統、文化、民族、そしてその不撓不屈の精神と熱い心、類い希な感性と人間性の輝きに、さまざまな角度から思いを巡らすことができます。

—展覧会カタログ・創作者メッセージより抜粋—

◆ 本年はショパン生誕200周年! ◆

「ピアノの詩人」と呼ばれる、ポーランドが生んだ天才作曲家ショパンの自筆書簡、彫像などを展示。また、ショパンが愛したピアノ「プレイエル」の音色を堪能できるCD（全8曲）が特別付録となった展覧会カタログを販売します（税込2000円）。

《ショパンの胸像》 オーギュスト・クレサンジェ（制作年不詳） チャルトリス美術館所蔵 Photo: Marek Studnicki



ポーランドの至宝 レンブラントと 珠玉の王室コレクション

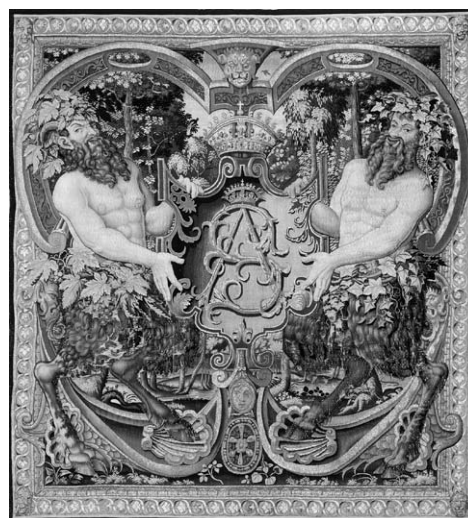
Treasures of Poland
Rembrandt and the Precious
Royal Collection

2010年 8月29日①－9月26日①

開館時間：10時～17時（最終入場16時30分） 休館日
主催：東京富士美術館、読売新聞社 8/30(月)、9/6(月)、13(月)、21(火)

ワルシャワ王宮と旧都クラクフのヴァヴェル城などが所有する油彩画、工芸、彫刻をはじめ、19世紀ポーランド絵画、またポーランドが生んだ偉人、コペルニクス、ショパン、キュリー夫人に関連する資料など、約140点を一挙公開。ポーランドにある美術作品を日本で本格的に紹介する初の試みとなります。

それでは、とっておきの
展覧会の見どころをお教えします!!



世界最大規模の タペストリーコレクションより 4点を紹介

国王ジグムントが16世紀に委託生産させた世界最大規模のタペストリーコレクションから4点を日本初公開。当初約160点で構成されており、今なお138枚が現存しています。王室の冠婚葬祭や重要行事に使用されていましたが、1795年ロシアに略奪され、125年間ロシア皇帝の住居を飾ることに。1921年に返還されますが、第二次大戦の勃発でカナダに運び出され、ようやく1961年ヴァヴェル城に戻りました。ポーランドでは、特に重要な国家遺産の地位を占める逸品です。

《サテュロスを描いたタペストリー》 コルネリス・フロリスとコルネリス・ボスの下絵に基づく 1550～1560年頃 ヴァヴェル城所蔵
Photo: Stanislaw Michta

不屈の意志で市街を復興させ、世界遺産に!



《ジグムント3世の円柱から見たクラクフ郊外通り》 ベルナルド・ベロット 1767-68年 ワルシャワ王宮所蔵 Photo: Andrzej Ring

第二次世界大戦中の1944年、ナチス・ドイツに対して起こした「ワルシャワ蜂起」の結果、ワルシャワの旧市街は徹底的に破壊されました。しかし戦後、市民の献身的な努力によって、ワルシャワの旧市街地は見事に再建されました。1980年、ワルシャワ旧市街は、不屈の意志で復興を成し遂げた人々の尊い行為に対して、世界遺産に登録されました。



瓦礫と化したワルシャワ旧市街

市民の手で 奇跡の再建!

戦後、ワルシャワ旧市街は、市民の手で、街全体が建物の細部まで可能な限り厳密に復元されました。実は、戦時中、多くの文化遺産が失われることを危惧し、学生を中心に、銃弾が飛び交う街を、建物のヒビ一本にいたるまで忠実にスケッチし、教会の棺に隠していました。復元には、35,000枚ものスケッチと、ベロットが描いた18世紀の都市景観画が使用されました。



現在のワルシャワ王宮